








# 高温に対する農作物の技術対策

令和4年8月12日  
農業技術課

気象庁から高温に関する早期天候情報（関東甲信地方）が発表されました。  
山梨県では、8月14日から16日にかけて太平洋高気圧の暖かい空気に覆われ気温の高い状態が続く見込みです。  
農作物や家畜の管理等に注意してください。

〈週間予報 令和4年8月12日5時 甲府地方気象台 発表〉

山梨県の天気予報（6日先まで）								
2022年08月12日05時 甲府地方気象台 発表								
日付	今日 12日(金)	明日 13日(土)	明後日 14日(日)	15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	
山梨県	曇時々雨 	雨時々止む 	曇時々晴 	晴時々曇 	曇時々晴 	曇 	曇 	
降水確率(%)	-/40/50/50	50/60/70/60	30	20	30	40	40	
信頼度	-	-	A	B	A	C	C	
甲府 気温 (℃)	最高	32	30	36 (34~38)	37 (34~39)	38 (35~42)	35 (31~38)	32 (29~35)
	最低	-	25	25 (23~26)	25 (23~26)	25 (23~27)	24 (23~26)	24 (22~26)
向こう一週間（今日から6日先まで）の平年値								
		降水量の7日間合計		最低気温		最高気温		
甲府	平年並 8 - 33mm		23.4℃		33.2℃			

## (1) 果 樹

### 1) 共通事項

- ・乾燥防止のため、成熟期の園では5日間隔で20mm、果実肥大期の園では4~5日間隔で30mm、収穫後の園（施設栽培を含む）では7日間隔で30mmを目安に灌水する。
- ・灌水施設のない園では、樹冠下を中心に1樹当たり、200~300リットル散水する。
- ・樹冠下は敷ワラ、敷草を行うとともに、草生栽培園では草刈りを行う。
- ・高温でアザミウマ類やハダニ類の発生が多くなるので、防除暦を参考に防除を徹底する。

### 2) モ モ

- ・収穫後の日持ちを良くするため、収穫は気温の低い朝に行う。
- ・最高気温が35℃前後になると、成熟や着色が遅延する傾向があるため、硬度2~2.5kgを目安に適熟収穫に努める。
- ・着色期の過度な葉摘み、徒長枝の剪除は避け、下垂枝は支柱や吊り上げにより、反射マルチとの距離を確保する。
- ・反射光の強いマルチは、日焼け果の発生を助長するため、反射マルチを敷く範囲を調節し、着色が見ながら早めに除去する。
- ・二重袋の除袋後、直射光が当たる果実は、果実温度の上昇を抑えるため、残った内袋と果面に隙間を作る。
- ・主枝の日焼けや徒長枝の繁茂を防ぐため、収穫後垂れ下がった主枝や亜主枝は、支柱や帆柱の針金で45度を目安に先端を上げ、効率の良い受光体制を整える。

### 3) ブドウ

- ・着色期のブドウは、夜温低下による着色向上や同化養分のロス防ぐため、夕方の散水（5 mm程度）や棚面への散水（200リットル／10a）を行う。また、果房を高温にしないよう、過度な新梢管理を控え、必要以上に棚面を明るくしない。
- ・高温が続く場合は着色不良になりやすいので、早めの除袋を行うが、果房に直射が当たる場合は、クラフト紙のカサかけや誘引の見直しを徹底する。
- ・着色や糖度上昇が遅れないように、結果的な結果過多や樹勢の低下した樹では、早めに見直し摘房を行う。
- ・シャインマスカットでは、日焼けや縮果症を防ぐため、果粒軟化期（果粒に水を引き込んでから）以降に新梢管理を実施する。

### 4) オウトウ

- ・花芽分化期の高温、乾燥は翌年の双子果の発生原因となるため、定期的な灌水と敷ワラ等により土壌乾燥を防止する。
- ・ハダニ類の発生に注意し、発生が見られる場合には早期に防除する。

## (2) 野菜

- ・健全な生育を促すため、定期的に灌水する。
- ・地温の上昇と水分の蒸散を抑えるため、敷きワラや敷き草を行う。
- ・果菜類では、着果負担を軽減し、草勢を維持するため、不良果（奇形・変形果等）は早めに摘果し、健全果（良果）は肥大し過ぎないように収穫を適期に行う。
- ・草勢が極端に落ちている場合には、草勢の回復を図るため、必要に応じて液肥の葉面散布を行う。
- ・アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガなどの害虫による被害が増加することが懸念されるため、ほ場での発生に注意し、発生初期の防除に努める。
- ・夏秋なすでは、つやなし果の発生を防止するため、整枝、摘葉などを徹底し、葉面からの蒸散量を抑える。うね間灌水をする場合は、地温が下がる夕方に行い、株元まで水位を上げないように注意する。
- ・夏秋トマトでは、ホルモン処理を徹底し、着果促進を図る。また、カルシウム剤の葉面散布を行い、尻腐れ果の発生を予防する。
- ・スイートコーンは、雄穂出穂以降から収穫まで、特に多くの水分が必要となる。この時期に降水量が少ない状態が続くと、肥大不足や先端不稔を引き起こすとともに、出荷時の粒の萎びの発生も懸念されるので、乾燥状態が続いているほ場では、速やかにかん水を行う。
- ・キャベツは、土壌水分の少ない状態が続くと、定植時の活着が不良となり、苗が枯死する可能性がある。また、結球期以降では小玉化が懸念されるので、乾燥状態が続いているほ場では、速やかにかん水を行う。

## (3) 花き

### 1) 共通事項

- ・アザミウマ類、ハダニ類などの害虫による被害が増加することが懸念されるため、発生状況を把握し、初期防除に努める。

## 2) 施設花き

- ・寒冷紗などで強めの遮光をするとともに、強制換気に努め、施設内気温や葉面温度の上昇を防止する。
- ・朝夕に十分量灌水を行う。

## 3) 露地花き

- ・敷きワラや敷き草等を行い、土壌表面からの水分蒸発を抑制するとともに、朝夕に灌水を行う。

## (4) 水 稲

- ・出穂後の高温は胴割れや白未熟粒の発生が増加し、品質が低下するので、深水やかけ流しかんがいをを行い、稲体を冷やす。

## (5) 大 豆

- ・開花期以降の乾燥は落花・落莢を引き起こし、減収につながる場合があるので、乾燥が続く場合は畝間灌水等を行う。

## (6) 茶

- ・敷草等により乾燥防止を図るとともに、定期的な灌水に努め樹勢の維持を図る。

## (7) 畜 産

### 1) 共通事項

- ・良質で消化率の高い飼料の給与、ビタミンやミネラルの追給及び清浄で冷たい水の給与に努める。
- ・高温時は飼料や水が劣化しやすいので、残渣等を放置しないよう努める。
- ・観察の頻度を増加させることにより、健康悪化の兆候がないか等、家畜の健康状態をよく把握し快適性に配慮した飼養管理に努める。

### 2) 舎飼い家畜（牛・豚・鶏等）

- ・飼育密度の緩和、換気扇や扇風機等による送風や散水・散霧を行い、家畜の体感温度の低下に努める。
- ・寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏・壁・床への断熱材の設置及び屋根への消石灰の塗布等により畜舎環境の改善に努める。

### 3) 放牧家畜（主に牛）

- ・放牧する時は、朝・夕などの涼しい時間帯での実施や、日陰林等のある放牧地での実施に努める。

## 熱中症対策

暑熱環境下での作業は、熱中症(熱射病、熱けいれん、熱まひ)を生じる恐れがあるので、次の事項に注意する。

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行う。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給する。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に気を付ける。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をする。
- 作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努める。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努める。
- 作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか、断熱材で隔離し加熱された空気は屋外に排気する。